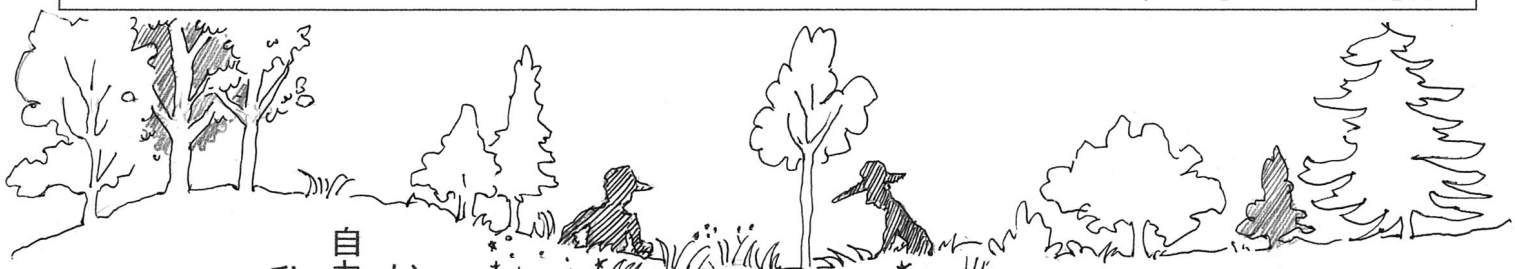
# われもこう 第40号

2019年4月25日 発行



われもこうの会の会員が手入れをしている二つの原っぱ。

「原っぱ」と名付けただけあって日当たりがよく乾燥気味の土地です。そこで咲いているのは、オミナエシやアサマキスゲ、ワレモコウなどなど。カンカン照りの夏、水やりをしなくても元気に育つ野の花です。



一方、会員が自宅で育てているのはどちらかというと木もれ日程度の日差しとほどよい湿り気を好む草花がメインです。クリンソウやエンレイソウ、サラシナショウマ、レンゲショウマ、ギボウシ、フシグロセンノウ、その他いろいろ。



## 野の花の居場所づくり をしています。

いずれもかつて軽井沢の草原や土手、林のへりなどで自力で生きてきた野の花です。

私たちわれもこうの会では

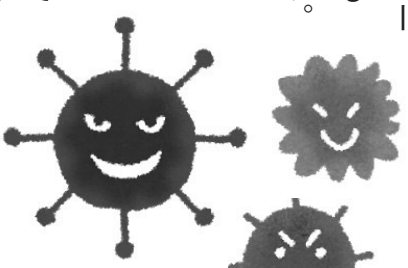


**【特集】 会員に聞いてみた！　軽井沢の湿気 ― その傾向と対策 ―**

# 床下カビ対策の大失敗

もう15年も前のことである。築20年の家を買い、住み始めたところ、床下がひどくかび臭いことに気がついた。詳しく様子を調べてみると、根太などに白っぽいカビが大量にまとわりつき、一部は腐りかけていた。当時のことだから我が家の床下は、コンクリートで固めておらず土が露出している。てっきり下から湿気が上がってきているものと思い、ビニールハウス用のビニールを買い込んで床下に敷きならべた。カビはバーナーで焼いて退治した。そして換気を良くするため、床下換気扇を4つ取り付けた。これでもう大丈夫とすっかり安心し、結果も見ないで過ごしていた。1年ばかり経って点検してみると、驚いたことにカビが激増しており、ビニールシートのあちこちの凹みには水がたっぷり貯まっている。対策工事が逆効果だったことは明らかだった。

こういうことである。軽井沢の夏、気温は25℃以上になるし、湿度も80％を超えることは決して珍しくない。朝などは100％近い場合が多いのではなかろうか。一方、床下は夏といえどもかなり涼しい。我が家の場合、17℃くらいである。湿気が多く温度の高い外気を床下換気扇で冷たい床下に送り込むと激しい結露が起こるのは当然だ。気温25℃で、相対湿度80％、90％の空気は、それぞれ4℃、2℃下げるだけで結露する。冷蔵庫の扉を開けたままにしておくと壁面が結露で濡れてくるが、同じ事を床下でやらかしたのである。ちなみに床下に敷いたビニールの裏側（地面側）はほとんど乾燥していた。湿気が地面から上がるなら、ビニールの裏側に水滴が付くはずであるが、そうしたことはほとんどない。床下の湿気は下から上がるとの「常識」は少なくとも我が家では当てはまらない。



2回目の対策工事は次のように行った。なお、前回と同様、全て直営工事である。先ず、床下換気扇を撤去、開いた床下換気口に厚い板をはめ、外気の流入を止めた。そして使い古した除湿機を床下に持ち込み、タイマーを使って一日数時間、間欠的に動かしている。さらに外した床下換気扇2台を床下の空気をかき混ぜるために動かしている。目立った電気代の増加は感じないから、そのための電気代は千円を超えることはないと思う。除湿機から出てくる水は床下の土にホースで流し込んでいるだけである。現在はカビの匂いがしないどころか、我が家の中で最も乾いた場所になった。季節によって異なるが、夏は60～65％以下、冬は50％くらいである。我が家は緩やかな傾斜地に建っており、地面から床まで1.5ｍくらい、中腰になれるところがある。客用の布団や母の形見の着物などをしまっておく貴重な「部屋」として重宝している。

話は変わり床下ではなく床上のことである。部屋に湿気がこもっていると感じ、窓・ドアを大きく開けていたことがある。やはり高湿の外気が冷たい壁や床に触れて結露し、カビがかえって増えてしまった。以来、換気をするにしても「控えめ」を旨としている。

換気は部屋の中の結露や湿気を乾燥させる効果があるとされる。しかしながら軽井沢のような、家の中が冷たい地域ではかえってはげしい結露を招くことが経験的、理論的にいえそうである。独断と偏見に満ちた見解として受け取って頂きたいが、他の地域での常識「カビ対策の

基本は換気」は、軽井沢ではあたらないのでは、と考えている。

【ＹＥ】



## 場所によって大きく違う湿度

―― 孫の自由研究から ――

東京の中学生の孫娘から電話がかかってきた。用件は「夏休の宿題『自由研究』で何をやれば良い？」というのである。「お父さんやお母さんに聞け」と応じると、「おじいちゃんに相談しろ」と言われたという、完全な「丸投げ」である。その時は「軽井沢に来たとき、相談しよう」とお茶を濁しておいた。軽井沢に実際にやって来ると、知らん顔もしておれない。話し合いの末、課題として決めたのは「微気象」の調査である。気象庁から発表されている軽井沢の気象は、追分の浅間神社の裏での観測である。同じ軽井沢でも場所によって気象が違うはずだし、尾根筋や谷筋、森の中と開けたところでの違いもあるはずだ。温度計、湿度計で実際に調べてみようというわけである。しかし各地点を同一時間で測定するには多数の温湿度計を用意しなければならない。我が家には温湿度計は一つしかなく、一斉測定は無理である。調査地区を我が家のある鶴溜１km ×0.5 km の狭い地域に絞り、なるべく短い時間で各地点を周ることで、同一時間での測定と見なすことにした。私は助言役に徹し後は放ったらかしにしておくつもりだったが、山の中を女の子1人で調査させるのも不安があるので、結局、朝は一緒に歩き、昼、夕方は車で案内させていただいた（ジイバカそのもの）。

親の「丸投げ」も最初は困ったものだと感じていたが、東京のあの人工的な環境では『自由研究』の課題をみつけるのも難しそうである。軽井沢で『自由研究』をするのももっともと感じた。

孫の調査は8月15日の1日、10地点を朝、昼、夕方の3回測定した。表に見るように狭い地域といえども場所毎に数値が異なっている。朝夕に比べて昼の差が大きく、湿度でいえば最大値が79％、最小値が53％、その差は26％に及ぶ。それぞれは、森の中の日陰の場所、太陽の日射を受ける開けた場所であった。孫は開けた場所で湿度が低いのは、日照で朝露が乾いたためと考えたようである。しかし事はそう簡単でないらしい。説明は省略するが、詳しい分析をすると、樹木の多い場所では葉からの水分放出が空中の水分量を増やしていることがわかった。孫のおかげで勉強させてもらった。

【ＹＥ】

| | 朝（8:00 - 11:00） | | 昼（13:00 - 14:15） | | 夕（17:00 - 18:00） | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 温度（℃） | 湿度（％） | 温度（℃） | 湿度（％） | 温度（℃） | 湿度（％） |
| 最大値 | 25.1 | 89 | 30.8 | 79 | 25.5 | 83 |
| 最小値 | 22.5 | 68 | 25.9 | 53 | 23.8 | 68 |
| 差 | 2.6 | 21 | 4.9 | 26 | 1.7 | 15 |

2018年8月15日、鶴溜における10地点での朝昼夕の温度、湿度の違い（朝昼夕に付した数字は10地点測定に要した時間）



# 軽井沢の湿気

## ―― その傾向と対策 ――

憧れの軽井沢！　この地で別荘を建てよう、永住しよう、と思い、不動産屋さんに連れられて物件を見て回っている時、不動産屋さんがふともらした言葉、「軽井沢は夏の湿気と冬の寒さが尋常じゃないんですよね。夏、チョット留守にすると家じゅうカビだらけになりますよ」（これは「重要事項説明」の一環か？）それを聞いて即退散された方々もおられるかもしれません。不動産屋さんの言は間違いではないものの、現実ともチョット違う感じがします。そこで、今回は「湿気」をテーマに実際はどうなのか、われもこうの会会員に生の声を聞いてみることにしました。会員の意見は後ほど紹介するとして、まず、それらをまとめてみます。

湿気の影響と住んでいる場所との関係では、

湿気の影響の多い地域：扇平、発地

少しあるが我慢できる地域：鶴溜、前沢

影響が無い地域：追分、発地、千ヶ滝西

これはよく言われる「西に行くほど湿度が低くなる」に大体一致しています。この中で発地のように意見が別れているのは、その周囲状況（木が多く生えている、とか、川や沼が近いとか）にも影響されていると思われます。ただ、温水路隣接地でも全く湿気の影響は無いとのことなので、水の近くは駄目、とはならないようです。

カビ対策として、「窓をあけて風を通す」、は賛否両論があります。会員の意見から推察すると、夏に冷房を入れる場合は結露になり、入れなければ問題は無いと思われます。熱交換式換気システムも効果がありそうです。除湿器付の製品も出ています。

湿気は嫌なことばかりではなく、霧下野菜、霧景色、山野草など、良いこともあります。以下は会員の実体験に基づく意見です。

### 軽井沢の湿気データ

- 軽井沢の年間霧日数は 151 日。日本のロンドンといわれる霧の街「釧路」の霧日数 90 日を大きく上回る。
- 年平均相対湿度は 81%。湿度が高いとされる八丈島の 80%をも超えている。

上記のデータは 2016～2018 年の平均値に基づく。

【参考】気象庁データーベース、
理科年表 2018

【ＫＭさん：前沢】

・カビでは困っていない。
・木造住宅。熱交換式換気システムは未設置。珪藻土壁に少しカビがつくことがある。
・湯川から100メートル位離れている。
・近くのアパートでは黒カビが生えている。
・カビは空気の流れの無いところに増殖する思われる。なるべく家具を置かないようにした。

【ＹＥさん：鶴溜】

・空気を入れ替えると湿気を含んだ空気が温度の低い家のなかに入り、結露を生じるので、風を入れない方が良い。

【ＫＯさん：前沢】

・夏、窓を開けるとアルミサッシに結露する。夏は冷房をいれている。
・木が鬱蒼と茂っている場所ではない。湿度対策としては、周囲の木を切るのが良い。

【ＳＯさん：追分、温水路隣接】

・カビは生えていない。
・夏は窓を開けている。
・別荘を建てた32年前は原っぱであった。
・庭はほっておくと苔庭になってしまう。現在も苔庭になっている。
・ニセアカシア、カラマツ、ナデシコ、アヤメ、

ワレモコウ、フロウソウ、などが生えている。
・家の外壁は板壁。全く傷みは見られない。新築直後からメンテナンスはしっかりやった。これが大切。傷み始めてからメンテナンスをするのでは遅すぎる。

【ＨＹさん：扇平別荘地】
・長期に留守をすると少しカビがつく。（別荘として使っていた時。）
・定住してもウォーキングクローゼット内の衣類がカビだらけになる。
・サクラソウ、ルリソウ、レンゲショウマ、アケボノソウなど湿地に適した山野草がこぼれ種からでも増えている。最近、苔も多くなった。
・除湿剤を入れてもすぐ水でいっぱいになる。
〈湿気が良かったこと〉
・木が多いためツルヤや旧軽井沢銀座の所より夏はずっと涼しく、来客もホッとする、と言ってくれる。
・霧が多くても軽井沢らしくそれを楽しんでいる。
・湿地に生える山野草が多くそれがご縁で「われもこうの会」とつながり、友人が沢山出来た。
・自然の山野草をみたいと花好きな人が沢山訪れる。
・ここだけの内緒の話：毎年軽井沢に静養に来られる両陛下に我が家のレンゲショウマの花束を飾って頂き、お目にかかって山野草のお話をさせて頂いております。これは湿地に住んだご褒美です。
・カビや湿気が困るなど言っておられません。とにかく住めば都、悪いところより良いところを探して軽井沢生活を楽しみましょう。

【ＭＴさん：発地】
・カビが多い。
・除湿機を3～4台、押入れに設置している。
・壁は珪藻土。この壁にカビが付く。壁の一部にカビを見つけると、その壁全体にカビキラーを噴霧する。毎年ではなく、数年に一度位行っている。
・近くに川があったが、現在は暗渠になっている。
・遠くから来た人からは家に入って、「カビ臭い！」と言われる。
・ヤナギ、カラマツ、ミズキ、ヤマモミジ、サクラ、などが生えている。
・敷地は北斜面で、湿気が多い所と言われている。

【ＹＫさん：発地】
・カビは見たことが無い。床下にもカビは無い。
・敷地境界に水路が流れている。
・周囲には樹木は生えていない。

【ＴＨさん：千ヶ滝西】
・カビは見たことがない。床下にもカビは無い。
・近隣別荘のウッドデッキはメンテナンスをしても10年位で使えなくなっていたので、アイアンウッド（イペ）で作った。少々高価だが、町から補助金50万円が出たので助かった。
・床下には新築時に基礎から排出される水対策として換気扇（湿度センサー付）を設置した。
・熱交換式の換気システムを設置した。これがカビ対策（通風と湿度低減）に効いているかもしれない。
・夏は窓を開けて風を通しているが結露は無い。冷房は入れていない。
・風通しが良いとカビは生えない、という俗説に従い、なるべく家具は設置しないようにした。やむなく設置する場合は、壁との距離を大きめにとった。
・地形的に風が強い。
・土地の古老の話では敷地隣接東側に川が流れ

ていた（現在は道路になっている）ので、元々湿気の多い土地だったかもしれない。

・ツリフネソウ、ナギナタコウジュ、サクラソウ、コブシ、シラカバ、コナラ、サクラが生えている。

・霧の紅葉は格別に美しい。

【編集室注】本記事は会員の話を元に編集室で文章化しました。

## 林に囲まれた別荘の湿気対策

東京の湿度は年平均64～68％ですが、軽井沢は80％。碓氷峠から流れる霧（旧軽井沢。新軽井沢方面）や放射熱によって発生する霧（追分や南軽井沢方面）の影響があります。

軽井沢は1年の1/3が霧に覆われますし、もともと「沢」というだけに湿地帯なので、湿気は軽井沢にいる限り、避けられない問題です。

霧が流れることによって涼しさが増す高原の避暑地ですし、「霧下野菜」という言葉があるように、この霧がおいしい野菜や蕎麦を育ててくれるという利点もあります。

湿気対策として効果的なのは、24時間稼働の熱交換器の換気扇。天井裏に取り付けると、吸気口からとりこんだ空気を熱交換して室内全体に回し、室内は常に一定温度に保たれるので湿気は少なくなり、カビが生えることはほとんどありません。効果は高く、特に林に囲まれた別荘地におすすめです（1日の電気代は月に五百円～千円程度）。もう少し簡単に取り付ける床下換気扇（湿気を感知して自動的に作動する）もあります。

【ＫＨ】

## 新入会員の声

### 愛宕山のてっぺんから

「われもこう」の20年のあゆみには、その活動は、「野草が繁殖するための環境づくり」に力を注いできたというお話。その一文を目にした時、「星の王子様」サン＝テグジュペリの言葉「大切なものは目に見えないんだ」という言葉が浮かんできました。

ーかつて軽井沢に咲いていた野の花をふやすー

花が咲いたら、それは人々の目に美しく写ります。しかしながら、そこに至るまでの目に見えない地道な活動が、もっとも大切なことだと思いました。

私は、２０１６年よりトラスト活動を柱に自然保護を目的としたNPO法人愛宕山てっぺんの森を守る会（軽井沢 愛宕山）に籍を置き活動をしております。まだまだ駆け出しです。そんな中でも徐々に森に生きている動植物が目に入るようになってきました。２０１８年、私たちの活動の中で、「軽井沢にある野草を大切にした庭づくり」をまず別荘に広めようという活動が始まりました。しかしながらド素人です。考えあぐねているときに、見本市で微かに聞こえてきたわれもこうの会員の方の言葉が蘇りました。「うれしいわね。みんなが野草を持って帰る姿を見ると・・・」早速われもこうの会の会長さんにご連絡させていただきました。そして会長さん、副会長さん共に愛宕山まで足を運んでいただき、ご相談をさせていただきました。その時のお話の中で、「みんな、千円払って、草をむしりに来るんだよ！」本当に印象的な言

葉でした。

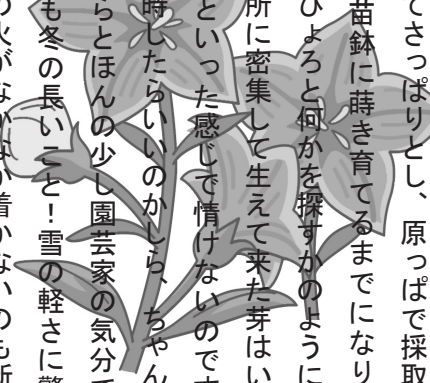
私が、われもこうの会の「原っぱ」に初めてお邪魔したのは、昨年の11月、作業最後の日でした。山積みになった草の山、その下を掘り起こして、キメの細かい肥料？土？を見たときには、びっくり。こんなに綺麗な肥料があるのかと・・・。

かつて軽井沢に咲いていた野の花をふやす、その作業に参加させていただき、野草の名前を覚える事、春から秋にかけて自然に咲く山野草と出逢えること、そして軽井沢の町の至る所でその姿があふれること、本当に楽しみです。

【ＲＨ】

## 気分は園芸家

この地に居を構えてもうすぐ丸３年。「軽井沢に住めば畑仕事や庭いじりの楽しみがありますね」と人から言われて「いえ、田舎で都会暮らしをするつもりです」と答えた私。草花は大好きなのですがその気持ち（？）はさっぱりわからず、うまく育てられません。土いじりもあまり好きではなく、草むしりは苦役と思っていました。そんな私が山野草のことを知りたくて「われもこうの会」に入り、草むしりの楽しさを知りました（草むしりが山野草を愛でる第一歩だとは！）。「頑張らないでいこう」精神がとても心地よいのです。お陰で去年の暮れには庭の枯れ草を抜いてさっぱりとし、原っぱで採取した桔梗の種を苗鉢に蒔き育てるまでになりました。ひょろひょろと何かを探すかのように伸びた苗、一ヵ所に密集して生えて来た芽はいかにも私の仕業といった感じで情けないのですが、地植えは何時したらいいのかしら、ちゃんと花は咲くかしらとほんの少し園芸家の気分です。それにしても冬の長いこと！雪の軽さに驚き、薪ストーブの火がなかなか着かないのも新しい体験で「冬は冬で楽しい」と浮かれている私に掛けられた言葉は「最初だけよ」。確かに、３回目の３月ともなると春が待ち遠しく緑が恋しくてなりません。



【ＫＴ】

## われもこうの会に参加して

何年か前から活動の事は知っていましたが、仕事を持っていましたので参加できずにいましたが、いよいよ転居し、昨年より参加させて頂き1年が過ぎました。

軽井沢で過ごすようになって30年以上、何もなかった我が家の周りにも次々に家が建ち、野の花が年々減り、寂しい思いと何とかならないものかと考える中で集まりに参加させて頂いたのです。多少の雨でも猛暑でも自主的に会の原っぱに集まり草花の手入れ！！　雑草を取るにも大切な花の苗と間違えないよう真剣に向き合い、皆さんから教えて頂くこと多々ありで楽しい時間を過ごすことが出来ました。終わった後の原っぱでのお茶の時間も格別です。

特に中部小学校の自然クラブのお手伝いをさせて頂き、子供達と一緒に草花や昆虫について学ぶ機会を頂き、良い経験になりました。昨年は4～6年生の23名の子供達とバスに乗り、町内の川辺・原っぱ・森林に出向く中で、何かに気づき観察することが目的で、そのお手伝いでした。参加させて頂くだけで何の役にも立たなかったのですが、子供達と関われたこと、専門家の栗岩先生、又メンバーの方々から色々教えて頂き、楽しい学びが出来たことに感謝です。草花や鳥・昆虫の名前は すぐに忘れるのですが、これからも元気で参加出来ることを願っています。



【ＳＯ】

# 野の花いっぱい咲かせたい！

「空き地に花を！」をモットーにふたつの原っぱで野の花の世話をしませんか。「われもこうの会」はかつて軽井沢のあちこちで見かけた野の花、開発などで見かけなくなった野の花を増やす活動をしています。

**☆会員募集中です☆**

原っぱの作業日、見学にお越し下さい。

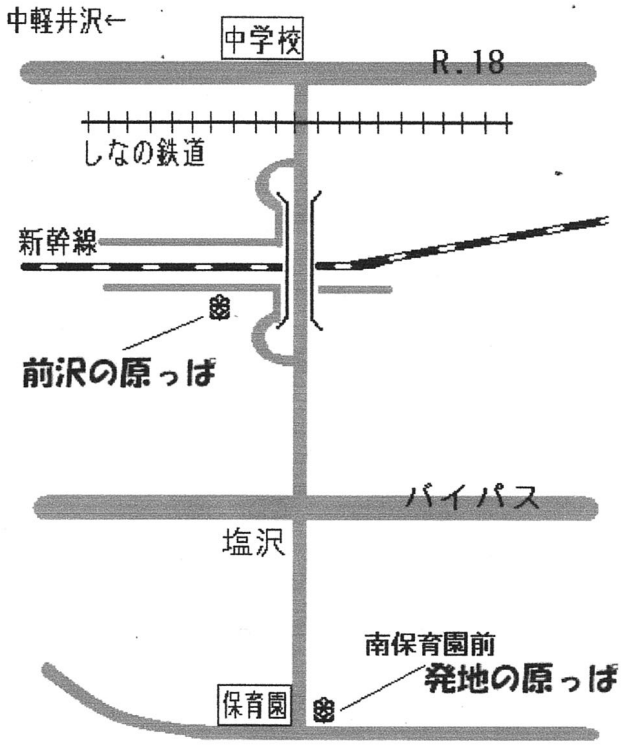
年会費 1,000 円

ご家族で入会する場合、２人めから 500 円

**2019 年の作業日**

5月１９日（日）、２９日（水）
6月　９日（日）、１９日（水）、３０日（日）
7月１０日（水）、２１日（日）、３１日（水）
8月　４日（日）、２８日（水）
9月　８日（日）、１８日（水）
１０月　６日（日）、２３日（水）
１１月　１０日（日）






●日曜日は発地の原っぱ

●水曜日は前沢の原っぱ

午後１時３０分集合

（作業の進行状況等により
移動することもあります。）



●雨天中止





●持ち物：日除けの帽子、園芸用手袋
スコップや草刈り鎌、
水筒（熱中症予防に）








◆◆◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆◆◆

特集「軽井沢の湿気」はいかがでしたか？　編集開始が遅れ、期日に間に合うかヒヤヒヤものでしたが、間に合ってホッとしています。編集中に本誌について皆様がどう読んでくださっているのか、ふと気になりました。読者の皆様、本誌についてのご意見等、お聞かせいただければ幸いです。参考にさせていただきます。ホームページの「お問い合わせ」ページをご利用ください。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

発行/われもこうの会　tel./ 090-4442-4387　http://waremokou.whitesnow.jp/Waremokou3/